

バラ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培	(定植年)											◎ ←
	(2年目)	⇒ ◎	————— [施肥] —————						×		×	←
	(3年目以降)	⇒ ×	————— [施肥] —————						×		×	←

特性と品種

日当たりの良い場所で、有機質の多い土だと生育が良いです。粘土質の多い場所では赤玉土等を、砂地ではピートモス等を入れて土壌改良をしておくといでしょう。

鉢植えの場合、庭土5、砂3、腐葉土2の混合土を使います。

現在、バラには、ハイブリット・ティ系（大輪咲）、フロリパンダ系（中輪咲）、ミニチュア系（小輪系）、ツル系の4つの系統があり、切り花のほか、鉢物、庭園、修景に使われています。

植え付け

生育途中の株（2年苗）を使用し、12月から2月に植え付ける。

1. 深さ、直径50cmほどの植え穴を掘り、半分ほど土を穴に返し、腐葉土や完全発酵牛ふんなどを約10ℓ入れ、混ぜ合わせる。
2. 根の先端を切り返し、バケツなどに水を張り、1時間ほど吸収させる。
3. 根を張りやすいように広げて据え、接ぎ木部分が地上に出るように土を埋め戻す。植え付け後、直ぐに十分なかん水を施す。

株の周辺に有機質の配合肥料約200gを施す。支柱などで固定して、根付くまでの1～2ヶ月は、乾燥させないようにこまめに水やりしながら管理する。

管 理

肥料は、年2回、1回につき化成肥料を一株につき、約80g施肥する。

病虫害に関して、うどんこ病（葉に白い粉が着く）や黒星病（葉に黒っぽい円形の斑点が発生して落葉する）、灰色カビ病（蕾の花びらに茶色のしみを生じて早く枯れる）が発生したり、毛虫類やアオムシ（ハスモンヨトウ）やアブラムシ類が発生するので、適時防除する。

剪 定

春から夏の枝の整理は、図のとおりです。

冬は、ふところの細い枝やこみいった枝は、つけ根から除く。また、樹形が乱れて、見苦しくなった場合、地上30cm位の高さの外芽の上ですべての枝を切る。

